

## 8 年間指導計画

### (1) 年間指導計画の作り方

道徳教育は意図的、計画的、組織的に行われなければならない。そのため道徳教育全体計画に基づいて児童生徒の発達段階に応じた学年ごとの年間指導計画が必要となる。

年間 35 時間ある道徳の時間を小学校では 19～22 項目を、中学校では 22 項目をどのように組むかは、校長の指導の下、道徳推進教師を中心に全教員が共通理解をもって計画づくりに参加し、自校にふさわしい指導に結びつく年間指導計画にすることが大切である。また、各校の重点内容項目を年間 3 回程度組み入れることで、指導の厚みを出している。各内容項目を順番に配置するのではなく、他の教育活動との関連や学校行事、地域の行事、季節の変化などを十分考慮し、内容項目の配置と主題の設定を行っている。

### (2) 年間指導計画の実践例（大仁中学校第 2 学年年間指導計画より抜粋）

（2 学年道徳基本方針 教師と生徒の信頼関係や生徒相互の温かい人間関係を土台に、自分の考えを深める授業を進めることで、ともによりよく生きる生徒を育成する。）

回	10	11
月日	6月29日	7月6日
内容項目	(19)生命の尊さ	(4)希望と勇氣、克己と強い意志
主題名	命の輝き	粘り強く
ねらい	秋雪ちゃんの生涯から、生命の尊さを理解し、かけがえない自他の生命を尊重しようとする意欲を育てる。	希望と勇氣を持って積極的に取り組むとともに、困難に屈しない粘り強く最後までやり抜く態度を養う。
教材	たったひとつのたからも	前を向いて進むために
出典	心づないで	心ゆたかに
主題構成の理由	生命は自分だけのものではなく、周囲の生命と関わっている。中学生の多感な時期にこそ、生きる喜び、目標、意味を考えさせたい。限りある人生を精一杯生き抜く心意気が大切であり、その中に喜びや幸せのあることに気付き、自己を見つめ、自分以外の生命を尊重していく態度を養えるよう、本主題を設定した。	中学生の時期は、興味や関心が多様化するため、移り気な面が出てくる。そのため計画性や見通しに欠けたり、独善すぎたりして、困難に直面すると簡単に挫折してしまう。人間の意志は本来弱いものであるからこそ、正しい目標に支えられた計画性、自発性、積極性で自分を支えていくという意志をもてるよう、本主題を設定した。
指導過程と指導方法	(導入) 身近な「死」を経験したことはあるか。 (展開) ①変する我が子を失ったときの母親の気持ちを考えよう。 ②母親が、子どもを失っても生きていこうと思える理由を考えよう。 (終末) 授業振り返り	(導入) 最近の部活動への参加の様子を発表する。 (展開) ①父の言葉を聞いて、わたしはどんな気持ちになったか。 ②部活動以外でくじけそうになっても頑張ったことを発表する。 (終末) 授業振り返り
評価	・命の有限性の視点から、命を大切にしようとする実践意欲がもてたか。	希望や意欲をもつことの大切さとそれに伴う困難について考え、何事にも粘り強く取り組む意欲がもてたか。
他の教育活動との連携	(国語7月) クリスマスの仕事	(7月) 3年生激励会
その他 (GT活用等)		

ねらいと教材で構成した主題を、授業の内容が概観できるように端的に表したものを

道徳の内容項目を基に、ねらいとする道徳的価値や道徳性の様相を端的に表したものを

ねらいを達成するために教材を選定した理由を簡略に示す

どのような学習指導過程や指導方法で学習を進めるのかについて簡潔に示す

生徒の学習状況からの成長の様子などを本時のねらいに合わせて評価をする

「夢を実現する方法」白井氏による講演

宮城県北浦小学校山内先生による東日本大震災に学ぶ「命」の講話



道徳教育全体計画・別業・重点内容項目・年間指導計画を一つの掲示板にまとめ、各自がチェックを行っている。  
年間指導計画においては、学級ごと子どもの実態も違うため、事前に授業者がねらいと発問について変更を行うことがある。